



「平成」から「令和」へ

まだまだ先のこととして捉えていた「令和」の時代になりました。時の流れの速さを実感します。新年度を迎えて、連絡協議会も新たなスタートを切りました。平成31年3月1日には、協議会発足10年を契機として「拡大版地域意見交換会」を開催しました。協議会のこれまでを振り返り、今後について考えました。また、関係機関とのネットワークの大切さを再確認し、構築・強化を図りました。千葉県全域から266名の参加を得て、とても有意義な会になりました。

今回、この会の開催を通して改めて関係機関との連携が重要であると感じました。そして、我々を取り巻く環境の変化に合わせて、新たに連携をとるべき関係機関が増え続けていると感じます。昨年度の研修では定着支援センターの岸さんを招いて、法を犯した方への支援を学び、あらたな連携の必要性を実感しました。全国50のセンターでは「生活困窮者のうち障害が窺われる方への伴走型の支援」がスタートし、生活困窮者を支援するセンターとの連携が必要になりました。このほかにも今年度からナカポツセンターに対しては、「中小企業への支援」「ピアサポーターの活用」など新たな取り組みを求められています。「仕事が増える」「仕事が不明確になる」とネガティブに捉えがちですが、時代に合わせてセンターの在り方・支援内容を見直していく機会と捉えることも出来ます。これらを制度としてより良いものにしていくためには、私たちの実践と検証が必須になります。

移り行く就労支援にしっかりと対応し、現場の実践・検証をもとにした発信をし続けていくことが私たち連絡協議会に求められているのではと感じます。元号が「平成」から「令和」に、私たち就労支援においても大きな転換期になることは間違いありません。この時代を大いに楽しみ、大いに悩み、あるべき支援を実践していく、そんな協議会活動をみなさんと共に進めていきたいと思えます。

会長 藤尾 健二

10周年記念 ～地域意見交換会～

平成19年。千葉県内に設置されていた4センターで「千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会」が発足しました。

それから10年の間に、県内の障害保健福祉圏域16カ所全てに就業・生活支援センターが設置され、今ではその16センターが連絡協議会に加盟して活動しています。

平成30年5月の全体で集まる会議で「いろいろなことがありながらも協議会が発足して10年経ち今まで何をしてきたのか、次の10年で何をしていくのか、皆で集まって何かしないか」という話になり、その企画をするための特別部会を結成しました。

打ち合わせを重ねる中で、「障害者の支援、雇用、教育に関わる様々な立場の方にお越しいただいてフォーラムをしよう」ということになりました。テーマは“これからの障害者雇用を考える”とし、とにかく障害者雇用、障害者支援に携わる人たちが話を聞いて、明日への活力を得られるような内容にすることを念頭に、何度も打ち合わせ、何度も飲み、平成31年3月1日に『設立10周年記念拡大版地域意見交換会』と題して、千葉市文化センターアートホールでフォーラムを開催し、県内各地から266名の方に参加いただくことが出来ました。

基調講演では社会福祉法人やまびこの里の志賀利一様に講演をいただき、シンポジウムでは就労移行支援事業所、障害者職業センター、障害者雇用を行う企業の立場の違う3名の方と藤尾会長や会場の皆様を交え、意見交換を行いました。フォーラムの後は三井ガーデンホテルに会場を移し、夜の情報交換です。立食でお酒も入り、膝を交えた話合う姿がみられ、非常に盛り上がる良い会になりました。

ご参加くださった各方面の方々とお話をさせていただき改めて感じたことは、私たちに出来る支援は限られていて周りに応援者、理解者をいかに作るかが重要だということ。よく言われている『連携、ネットワーク構築』の本当の意味を知ることができ、協議会スタッフにとっても良い意見交換会となりました。

私自身、この協議会の節目のイベントに携わることができ、非常に良い刺激を受けました。20周年の時もこの企画に携わることが出来るよう、細く、長く、しぶとく！この仕事に向き合っていきたいと思えます。

ふる里学舎地域生活支援センター 石森 広恵



東総就業センター

～分水嶺・そして人との出会い～

分水嶺とは、山の頂（いただき）周辺から流れる小川が、そこから東と西あるいは北と南に、いわば反対方向に流れる地点を言います。平成17年から19年は、振り返れば障害福祉もひとつの分水嶺になるのではないのでしょうか？

今から12年前・・・まだ障害者就業・生活支援センター事業についても地域の中に浸透される前の頃の話ですが、この事業を受託できる要件が非常に厳しい時代でした。現在は障害福祉圏域（16圏域16センター）にセンターが設置されていますが、当時は活動圏域も広範囲に渡らないと『働きたい』という障害のある方や障害者雇用へご協力いただける理解ある企業が少なく、対象となる企業数と支援対象者数について5年間確保しないといけない現状もありました。さらに障害のある方の『働きたい』という思いに深く寄り添い、相談者一人ひとりにかかる時間と支援の内容は、現在の大変さとは違う大変さを感じた頃だったと思います。



地域でどのような活動を示していったら良いのか、全くわからず他の3センター（あかね園・キャリアセンター・ビックハート柏）にご指導いただいております。これをきっかけとして、千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会が発足され、ふる里学舎や就職するなら明朗塾等も含めたくさんの方々との素晴らしい出会いをすることができました。当時のことを思い返すと業務は大変であっても、千葉県内には自分たちと同じ境遇を持った仲間（センター）がいるということは、とても嬉しく心強いものでした。それは時を経た今も同じ気持ちでいつも“ありがとうございます”と感謝の気持ちでいっぱいです。

当時の恩師の言葉（今も心している言葉）ですが、**“不完全でいいから目の前のこと（人）をひとつずつ丁寧にやりなさい”** 我々は毎日一生懸命働いておりますが、どれ一つとっても完全なものはありません。今日完全と言われたものも、明日になると不完全になります。ですから、やることは山とあっても『ひとつずつ丁寧に…』をモットーにやってきました。これからも東総就業センターはゆっくりでいいから、前進していきたいと思っております。

東総就業センター センター長 辻内 理章

新連載！！

西村さんの…つぶやき！

5月に入りようやく暖かい時期がやってきたと思ったら、暑かったり寒かったり…地域によっては雹が降るなど、異常な天気が続いています。私共センターの中には気温や気圧の変化についていけずに体調を崩される方もいました。出かける前に天気や気温など情報収集し、合わせた服装を身に付けるよう心がけましょう。また季節外れのインフルエンザや胃腸炎なども発生しているようです。外出後の手洗いやうがい等注意も必要です。

私も気を付けていますが、適切な食事と適度な運動、十分な睡眠など生活リズムを安定させる大切さを感じています。働くためには身体が資本！今年度も頑張りましょう！

就職するなら明朗塾 「さくLA・LA・LA！」



▲佐倉市名所【ひよどり坂】

就職するなら明朗塾の支援エリアである印旛圏域は7市2町で構成されており、約73万人の人々が暮らしています。印旛圏域には成田国際空港があり、千葉県で最も国際的な需要が多い地域と言えます。

私たちの拠点である佐倉市は人口約17万人で、国際観光モデル地区に指定されています。佐倉市の城下町は日本遺産に認定されており、当センターのパンフレットの表紙には佐倉市の名所である「ひよどり坂」の風景写真を載せております。「ひよどり坂」とは、美しい竹林に囲まれた古径（こみち）で江戸時代からほとんど変わらない風景とされています。

さて、私たち就職するなら明朗塾は開設から11年目を迎え、3名から始まったスタッフの人数は現在12名体制で支援に取り組んでおります。福祉系の大学を卒業し、福祉を学んできたスタッフより他の分野から福祉業界に入ってきたスタッフの人数が多いことが特色です。

○独自の取り組み

当センターは、そのセンター名が「就職するなら明朗塾」と表す通り、障害者の就労支援を強く推進している事業所です。

就労することを通して、自立した生活の実現に向けて、強く働く意欲はありながらも、思うように就労に至らない方、これらは、企業からの雇用に関する情報が求職者へ正確に届いていないことがあげられ、これらのミスマッチのある状態を解消することを目指し、企業合同説明会を開催しております。企業合同説明会は、企業を知っていただく機会や新しい職場に出会うきっかけを提供することやお互いを体感していただくことを目的としています。



さらに、就労を目指す障害者だけではなく、これに関わる圏域内の関係機関や行政も参加し情報共有することによって、互いに顔の見える就労ネットワーク構築をも目指しています。

○さくLA・LA・LA

面談において、スタッフが不機嫌そうな顔で話を聞くと、相談者も心を開いてくれません。私たちスタッフがLALALAの気分で相談者に向き合いたいものです。

就職するなら明朗塾 センター長 関 幸太郎

令和元年度受託事業

○障害者就労促進チャレンジ事業

・事業目的

障害者雇用の促進を図ることを目的とし企業及び障害者双方の意識改革、就労支援機関と企業との関係構築を図る。

・事業内容

1) 企業等の理解促進

法定雇用率未達成企業や障害者雇用経験のない企業を対象に障害者雇用への理解・促進を図る。

2) 障害のある人等の意識改革

障害者やその家族に対し「企業で働く」ことへの意識改革を図る。

3) 短期職場実習

就労に関心の高い障害者へ短期職場実習の手配・調整を行う。

○精神障害者等向け実践能力習得訓練コースの委託先機関開拓業務

・事業目的

就労を希望する精神障害者等の職業訓練に対する受講ニーズや個々の状況を把握し、障害の特性を踏まえた効果的な職業訓練の受講を促すために、受託企業の開拓から、訓練計画作成、実施までを、千葉県立障害者高等技術専門校と連携しながら取組み、精神障害者等の就労を促進すること。

・事業内容

1) 訓練コース受託企業及び事業所の開拓

2) 訓練内容やカリキュラムのコーディネート

3) 訓練コース受託企業に対する事務手続き等の支援、訓練受託企業に対する助言や支援

制度施策部会より活動報告

～事業評価アンケートを実施して～

平成30年度、制度施策部会では『事業評価』と『隣接圏域にあるナカポツセンターとの連携』に関するアンケートを、関東10都県にあるナカポツセンターを対象に実施しました。

○そもそもなぜこのアンケートを実施したのか？

この『事業評価』が開始された時からナカポツ関係者の間では「事業評価は本当に必要なのか、意味があるのか」「こんなに大変なのになぜ低評価なのか」等、様々な意見が漫然と出ていました。

そこでナカポツセンターの本音を吸い出そう！どうせなら多数のセンターの本音を聴いてみたい!!せっかく集めた声ならば労働局に届けよう!!!ということでアンケートは実施されました。

○想像以上の協力、真摯に向き合う結果！

アンケートは85センターに依頼、回収率は驚異の68%と、想像以上に皆様からの協力を得ることが出来、この問題への関心の高さが伺えました。またアンケートの回答内容は否定的なコメントもありましたが、その一方で真摯に評価結果に向き合っていることも読み取れました。このアンケート結果を基に千葉労働局との連絡会議の際に意見具申をし、今回のアンケート内容について共有したいと、全85センターに配布しました。

本稿で結果については割愛しますが、近日当協議会HP上にて公開しますので、ご覧いただければ幸いです。

はーとふる センター長 柄澤 隆一



担当圏域	名称	電話番号
千葉市	千葉障害者キャリアセンター	043-204-2385
船橋市	大久保学園	047-457-7380
市川市・浦安市	いちされん	047-300-8630
習志野市・八千代市・鎌ヶ谷市	あかね園	047-452-2718
松戸市・流山市・我孫子市	ビック・ハート松戸	047-343-8855
柏市	ビック・ハート柏	04-7168-3003
野田市	はーとふる	04-7124-0124
成田市・佐倉市・四街道市・八街市 富里市・印西市・白井市・印旛郡	就職するなら明朗塾	043-235-7350
香取市・香取郡	香取就業センター	0478-79-6923
銚子市・旭市・匝瑳市	東総就業センター	0479-60-0211
東金市・山武市・大網白里市・山武郡	山武プリオ	0475-77-6511
茂原市・長生郡	長生プリオ	0475-44-4646
勝浦市・いすみ市・夷隅郡	ピア宮敷	0470-87-5201
館山市・鴨川市・南房総市・安房郡	中里	0470-20-7188
木更津市・君津市・富津市・袖ヶ浦市	エール	0438-42-1201
市原市	ふる里学舎地域生活支援センター	0436-36-7762

編集後記

「令和」になり1カ月が過ぎようとしています。障害者雇用においては平成からの課題が数多く引き継がれることとなりましたが、雇用においても一人ひとりに大きな花が咲かせる時代となればと思っています。

広報部会 近藤 大介

事務局

千葉県障害者就業・生活支援センター連絡協議会
障害者就業・生活支援センター
ふる里学舎地域生活支援センター
千葉県市原市今富1110-1

電話：0436-36-7762 F A X：0436-26-7090

E-mail：fg.shien@yukeikai.jp

ホームページ：http://www.chiba-centernw.com/